

日本商業教育学会報

No. 27 平成28年3月31日

日本商業教育学会

Japan Academic Society of Business Education

会長挨拶

会長 永井克昇

現行の高等学校学習指導要領は、平成25年度の入学生から年次進行により全面実施されていますので、平成27年度は、現行高等学校学習指導要領の完成年度を迎えたこととなります。しかし、平成26年11月20日、当時の下村博文文部科学大臣は中央教育審議会に対して、初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について諮問しました。このことを受けて文部科学省は、高等学校学習指導要領の完成年度を待たずして、すでにその改訂作業に入っています。

教育課程の基準としての学習指導要領は、完成年度を迎えるという区切りをもった実施を踏まえて、その理念や目標、内容等について様々な視点から評価され、その結果の分析に基づいて次の改訂作業に入るべきものです。まさに「PDCAサイクル」を適切に回すことが求められるのが、学習指導要領の改訂作業だと考えています。しかし、今という時代はこのことを許さないほどの激しさで動いています。今回の諮問の理由文の中にも次のような記述があります。

「今の子供たちやこれから誕生する子供たちが、成人して社会で活躍する頃には、我が国は、厳しい挑戦の時代を迎えていると予想されます。生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく変化し、子供たちが就くことになる職業の在り方についても、現在とは様変わりすることになるだろうと指摘されています。また、成熟社会を迎えた我が国が、個人と社会の豊かさを追求していくためには、一人一人の多様性を原動力とし、新たな価値を生み出していくことが必要となります。」

ここでは、「グローバル化」がこれからの社会、これを産業と置き換えることができると思

いますが、その構造や環境の有り様を規定する重要な要素となることを明確化し、それに適切に対応する教育の枠組みを早急に見直す必要性や重要性を示しています。

このことを受けて、本学会も平成27年度の第26回総会及び全国大会（千葉大会）の統一論題を「グローバル化する社会に対応する今後のビジネス（商業）教育の在り方」として、この課題について研究を深めました。

さらに、平成28年2月7日に行われた本学会の理事会において、今夏、8月20日（土）、21日（日）の両日、広島経済大学で開催される第27回総会及び全国大会（広島大会）の統一論題を「グローバル化する社会に対応した商業（ビジネス）教育の思想と実践」とすることにしました。

この統一論題は、「グローバル化」への対応を前回の統一論題から引き継ぐとともに、商業（ビジネス）教育でこれに適切に対応する教育の在り方をより一層深く探ることをねらいとしたものです。すなわち、前回の統一論題は「在り方」をテーマに研究を深めましたが、今回はそれを「思想と実践」として、「在り方」をより踏み込んだ内容のテーマ設定になっています。

ここで使われている「思想」については、「歴史的に統一された根本的な考え方の体系」と捉えています。商業（ビジネス）教育を「グローバル化」へ適切に対応させるには、商業（ビジネス）教育に関する基本的な考え方の歴史的な体系を明確にする必要があります。この体系化された基本的な考え方がこれからの商業（ビジネス）教育の在り方、方向性を探る際の基盤となります。この基盤なくして、商業（ビジネス）教育を担う私たちが、これからの社会の構成員となる生徒に対して、商業（ビジネ

ス)教育を通してどのような資質・能力を育んでいくのか、さらに、それらを新たな場面で自立的に活用することができる力、まさに生きて働く力として身に付けさせていくのかを明確化することはできません。

会員の皆様には、統一論題に込められたこのような趣旨をご理解いただき、皆様一人一人がこのことを考え続けたいと思います。

そして、8月にはその成果を広島大会に持ち寄り、研究協議を通して商業(ビジネス)教育が果たすべき責務を共有し、力強く推し進めていきたいと考えています。

注1 文部科学省西村修一先生提供資料

注2 科学研究費基礎研究 25245257【会計リテラシーの普及と定着に関する総合的研究 研究代者 柴 健次氏】

第26回全国(千葉大会)開催報告

平成27年度の日本商業教育学会全国大会は、例年よりも2週間ほど早い、8月8日(土)・9日(日)に、千葉県市川市の千葉商科大学を会場に、盛大に開催されました。

大会には、来賓・講師の方を含め、143名の方が、北は北海道、南は沖縄から全国各地より集結しました。首都圏という便の良さもありますが、多くの会員の皆様に足を運んでいただいたことに、大会事務局としては胸を撫で下ろしているところでもあり、改めて紙上より感謝申し上げる次第でございます。

とりわけ本年度は、長年に亘り会長として本学会をおまとめいただいた、中澤興起先生が会長職を御退任なされる年でした。中澤先生がお勤めされている大学を会場にして、全国大会を開催できたことは大変嬉しい限りです。

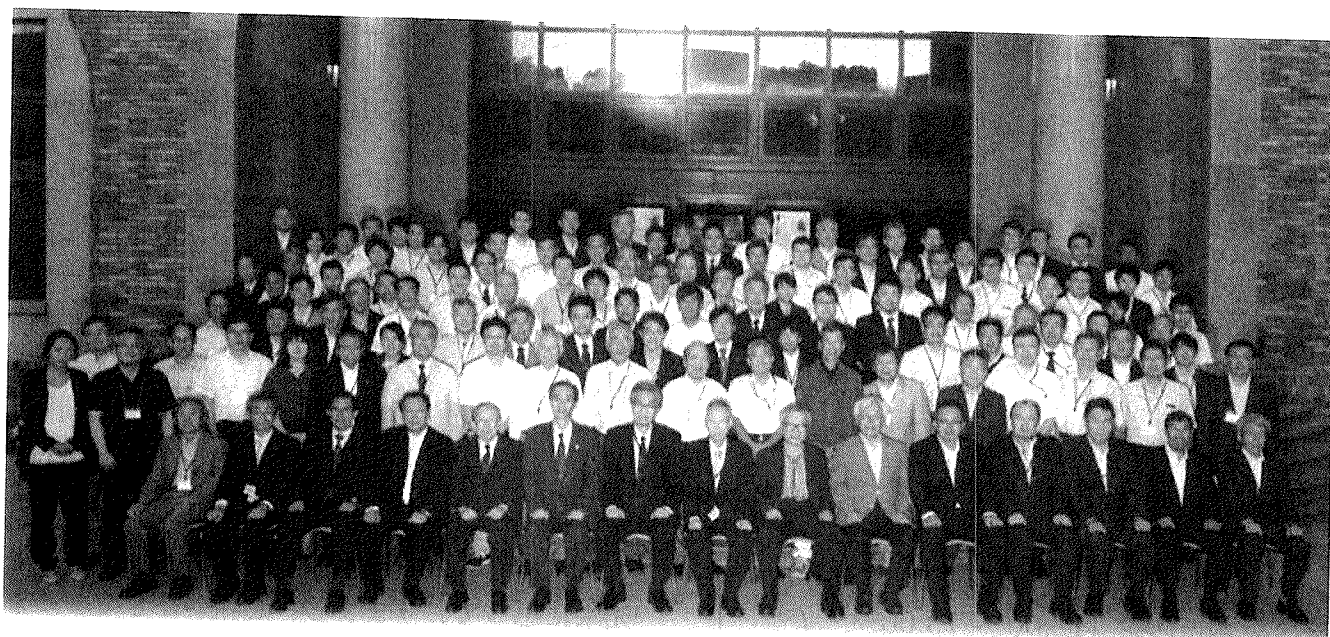
本大会の統一論題は、「グローバル化する社会に対応する今後のビジネス(商業)教育の在り方」でした。経済のグローバル化・ボーダレス化が進展するなかで、これからのビジネス活動を考える上では、これまでにない革新的な教育活動が求められます。本大会では、グローバル化が叫ばれる中、商業教育をとおしてどのような人材を育成する必要があるのか、という視点のもと、国際社会貢献センター理事長 齊藤秀久様の御講演、さらには3名の会員による統一論題に基づいた研究報告をとおして、グローバル時代における商業教育の方向性について考えることができました。

また、日韓学術交流会では、韓国経営教育学

会の元会長で中澤先生との親交も深い林 在熙(イム ジェヒ)様が、動画共有ポータルサイトを駆使したパフォーマンスを披露してくださり、とても感動的でした。これは、長い間両学会の友好に御尽力なされてきた中澤先生の御人柄や人望の厚さを窺い知ることのできる、幸福な瞬間でもありました。大会初日の夜は、恒例の教育懇談会が大学本館7階の立派な会場をお借りして開催されました。眺望が美しく、遠くには花火に彩られたレインボーブリッジも見ることができました。また、ささやかながら、千葉の地酒も用意させていただき、終始和やかなムードの中で、会員相互の交流をすることができました。

大会2日目には、文部科学省初等中等教育局児童生徒課産業教育振興室教科調査官 西村修一先生より、外の気温にも負けないほどの熱のこもった御講演を賜り、商業教育に携わる者が肝に銘ずべき事柄について再確認することができました。その他、助成対象研究報告(1本)や、自由論題による研究報告(8本)もなされ、大変充実した、実り多き大会となりました。

最後になりますが、快く会場を提供していただいた千葉商科大学の皆様、御多用の中来賓として御臨席賜りました、公益財団法人全国商業高等学校協会理事長 戸田勝昭様、千葉商科大学商経学部長 太田三郎様、教科調査官 西村修一様に心より感謝申し上げます。(文責 西川)



大会概要

統一論題：「グローバル化する社会に対応する
今後のビジネス（商業）教育の在り方」

会場：千葉商科大学

第1日 8月8日（土）（受付 12:30～）

1. 開会式（13:00～13:20）
2. 会員総会（13:20～13:50）
 - （1）平成26年度事業報告及び決算報告
 - （2）役員改選
 - （3）平成27年度事業計画及び予算案
 - （4）その他
3. 講演Ⅰ（14:00～15:30）

演題 『グローバル人材の育成と学校教育への期待』

講師 NPO法人 国際社会貢献センター
理事長 齊藤秀久氏
4. 研究報告Ⅰ（15:40～16:10）

助成対象研究
『商業教育の新たな評価法に関する研究
－職業バカロレアの試験手法の試験的
導入－』

名古屋市立名古屋商業高等学校
荒尾一彦氏（代表）

名古屋市立名古屋商業高等学校 市原住由氏
名古屋市立若宮商業高等学校 鈴木賀央里氏
名古屋市立若宮商業高等学校 夏目純一氏
名古屋市立西陵高等学校 三輪俊輔氏

5. 日韓学術交流会（16:20～17:20）

韓国経営教育学会報告

① A Study on the LBSNS Application
Based on the UTAUT2 Theory

Bing Zhang

Jong-Ho Lee

Bat-Amgalan Ganlkhagva

Rajasekhara Mouly Potluri

② 韓国の女性商業専門職業人育成のケース
スタディ 尹寛鎬, 崔允榮

③ A Study on Growing Measures of Living
Liability Insurance in South Korea

Young-arm, Kwak

④ The Effects of Positive Thinking in
Individuals Under Stress

Lim-Jung Lee

⑤ 音源分析を通じた楽曲間の類似度分析に関
する研究 金 榮哲

⑥ Web3.0時代の展望と課題 istry4.0を
中心に— 梁 在英

⑦ The Impact of Pioneer Status and
Exposure-order on Consumers'
Brand Preference : Mediated Effects
of Involvement and Product
Characteristics

Doo, Jeong-Wan

※ 記念写真撮影（17:30～17:50）

※ 教育懇談会（18:00～20:00）

第2日 8月9日（日）（受付 9:00～）

1. 研究報告Ⅱ（9:30～11:20）

統一論題①

『グローバル人材育成の取組 ESD世界会
議交流活動の成果と課題』

岡山県立倉敷商業高等学校 長谷川博之氏

統一論題②

『グローバル化に対応したビジネス分野における革新的人材育成』

富山県立大学 端野純江氏

統一論題③

『日本の和ブランドのグローバル化ー商業教育に求められるローカル化からグローバル化を中心にー』 阪南大学 平山 弘氏

2. 研究報告Ⅲ (11:30 ~ 12:00)

自由論題①

『商業教育を活かしたメソッドの開発ー継続教育時代に求められる新たなゴールー』

茨城大学 今村一真氏

自由論題②

『急激に変化する社会と会計教育』

千葉商科大学 長谷川清晴氏

※ 昼食・休憩 (12:00 ~ 13:00)

3. 講演Ⅱ (13:00 ~ 14:00)

演題 『代替し得ない商業高校の実現』

講師 文部科学省初等中等教育局児童生徒課
産業教育振興室教科調査官
国立教育政策研究所
教育課程研究センター研究開発部
教育課程調査官

西村修一氏

4. 研究報告Ⅳ (14:10 ~ 16:00)

自由論題③

『商業高校へのアンケート調査を通じた学習指導要領改訂前後の教育状況に関する一考察』

宮城大学 金子浩一氏

自由論題④

『大学教育からみた商業教育の優れた面と改善すべき点』

山口大学 小川 勤氏

自由論題⑤

『今、甦る三大商人 (近江・伊勢・大坂) の教えー顧客満足・流通革新・起業家精神ー』

松商学園高等学校 北澤潤一郎氏

自由論題⑥

『簿記の授業を楽しませるための試み』

立正大学 城 冬彦氏

自由論題⑦

『産業集積域内外におけるアンカー企業の役割ー燕・三条産地域内外の中小製造企業連携構造を例にー』

新潟県立新潟北高等学校 渡貫正治氏

自由論題⑧

『商業教育の使命と展望』

九州産業大学 田中靖人氏

5. 閉会式 (16:10 ~ 16:30)

(1) 次期開催地挨拶

来年度の全国大会開催地は広島県というところから、中国部会広島支部 岡田俊夫理事が次期開催地挨拶をなされました。

(2) 大会実行委員長挨拶

大会の締めくくりとして、本大会実行委員長 岡本次夫千葉支部長が御挨拶なされました。

講演Ⅰ

『グローバル人材の育成と学校教育への期待』
国際社会貢献センター理事長
齊藤秀久様

今回は、学会にお招きいただきまして、こういうお話をさせていただけるということで大変光栄に思っておりますし、感謝いたしております。皆様、少しでもグローバル化という流れの中でお助けになるような話ができれば大変ありがたいと思っております。

そもそも何で今日私がここに呼ばれたのかなというのをつくづく考えてみますと、やはり、私が現在、日本貿易会の常務理事を務めているからなのでしょうね。なかなかなじみのないところだと思いますが、経団連ですとか商工会議所ですとか、そういったような経済団体と基本的には同じような団体でございます。ただ、母体が総合商社、総合と言われた7社ありますけれども、それと中堅の商社、貿易関係の商社ですね、それが47社ほどでつくっている団体でございます。主に政府に対するいろいろな政策の提言を行ったりとか、人材貢献、社会貢献をやっているというふうなことを中心にやっている団体でございます。

国際社会貢献センター、これは我々、ABICと言っているのですけれども、ABICというのは Action for a Better International Community の略でして、日本貿易会が設立したNPO法人でございます。

何をやる組織かといいますと、日本の商社、貿易会として社会貢献をしていかなきゃいけないだろうということで設立された組織なんですね。商社って何もつくっていないんですね。逆に言うと問屋さんですから、右から左に昔は物を流していた、その転売で利を得ていたという商売ですから、それが貿易という形で商売に発展していったわけですけども、その中で、我々としてやはり持っているものというのは人材しかないということで、特に国際的な人材、これについてはかなりいっぱいいるものですから、この人材を定年退職した後もっと活用

しなきゃいかぬ、という考えがあるわけです。今のお年寄りは大変元気でございます。こちらにも私よりも大分先輩の方が何人もいらっしゃると思いますが、皆さん、大変お元気でいらっしゃると思っています。そうすると、60歳ぐらいで会社を辞めて家でブラブラしていると、大体ぼけてきまして、ろくなことがない。奥さんから嫌がられますので、それを避けるためにも、やはりもうちょっと仕事をしなきゃいけない。だけど、フルタイムで朝から晩まで追い立てられる仕事をするのは嫌だと。そうすると、社会貢献という形で社会に自分のノウハウを還元できればこんなにありがたいことはない。少しの報酬をいただいて、そのいただいた分でその辺で飲んで帰っちゃまおうというようなことでもございまして、そういう方が約2,600人登録していらっしゃいます。ABICとしては、毎年2,000人ほど紹介していろいろなことをやっていただいている。メインが700人ぐらいいらっしゃるのですけれども中小企業の海外進出ですとか首都圏でのいろいろな拡販ですとか、そういったもののお手伝いをしております。

次に多いのが学校の先生です。教員免許を持っているわけじゃありませんから講師なわけですけれども、一番多いのが大学の講師、これが約200人強、いろいろな日本中の大学に派遣しております。ここで海外の地域論ですとか産業論、こういったようなものを教えております。それから、小中高に対して先生を派遣しているというのがございまして、トータルで270人ぐらいは年間で派遣しております。それにプラス留学生の支援というのをやってございまして、これは東京と神戸でやっているのですけれども、国が持っている留学生の大きいセンター、1,000人ぐらい受け入れている施設ですけれども、そこで日本語を教えたりですとか、あとは日本の文化といったものを教えたりとか、そういった活動に取り組んでいます。

文科省の関係ですとかそういった委員も結構やらせていただいています、大学のほうも最近、スーパーグローバルユニバーシティとかスーパーグローバルハイスクールとかいろいろございまして、そういうものの選考委員ですとか評価委員ですとか、そういったようなものをやらせていただいております。

教育に関しても、私は商売しかずっとやってこなかったもので、ほとんど関与はしてこなかったのですけれども、一回だけ経験がございまして。ほんの片手間ではあったのですが、実は、シンガポールに駐在しておりましたとき、日本

人学校が現地にございます。日本人学校というのは、現地でいうと私立学校で、現地の日本人会が運営をしているんですね、お金を出して。日本からももちろん文科省の予算で先生に来ていただいているんですけども、半分以上は現地でお金を出してやっているという学校なんです。この理事長を1年間やらせていただきました。学校運営に関与しまして大変苦労した記憶がございます。この辺が数少ない教育に直接関与していたというところなんですけど、こういった組織を通じまして、我々、日本貿易会、それからABIC、両方の組織で今日本全体のグローバル化といったものもお手伝いして支援していきたいというふうに思っております。

ちょっと前置きが長くなったのですが、今日の本題でございまして「グローバル人材の育成と学校教育への期待」ということで、スライドを使ってお話をさせていただきます。まず、内容的には、なぜ今グローバルの人材が必要なのかというお話。これ、ちょっと雑駁な話になりますけれども、そういったものをさせていただいて、その後、その裏づけとなる数字的な裏づけですとか、もうちょっと具体的にご理解いただくための事例ですとか、そういったものもお話しさせていただいて、産業界としてどういったことをやっていかなきゃいけないと思っているか、また、どういったことを教育の現場の皆さんにやっていただきたいと思っているか、その背景と教育のことをお願いしたいというような具体的なお話をさせていただきます。思っております。

日本は戦後大きな発展をしましてまいりました。特に1990年ぐらいまでものすごい勢いで発展してきたわけですね。ところが、その後、残念ながらちょっと存在感が非常に薄れてきております。これは世界市場でということなのですけど、例えば、3つぐらい出ていますけど、テレビですとか携帯電話ですとか半導体ですよ、この辺で大きく世界に最近負けている状況が続いています。

最初に日本経済を引っ張ったのは繊維産業なのですが、これもほとんど衰退しまして、販売はもちろん非常に大きくやっていますが、製造ということに関して言うと、日本ではほとんどつくっていないというのが現状です。紡績機というのがございまして、紡績機というのが1錘、2錘と、糸の心を1錘と数えるわけですけれども、今日本がもう100万錘が限界なんです。ところが、世界的には1つの工場が6,000万錘とか7,000万錘なんという大き